

博覽會見聞錄

特39

322

五冊內裝三

卷号

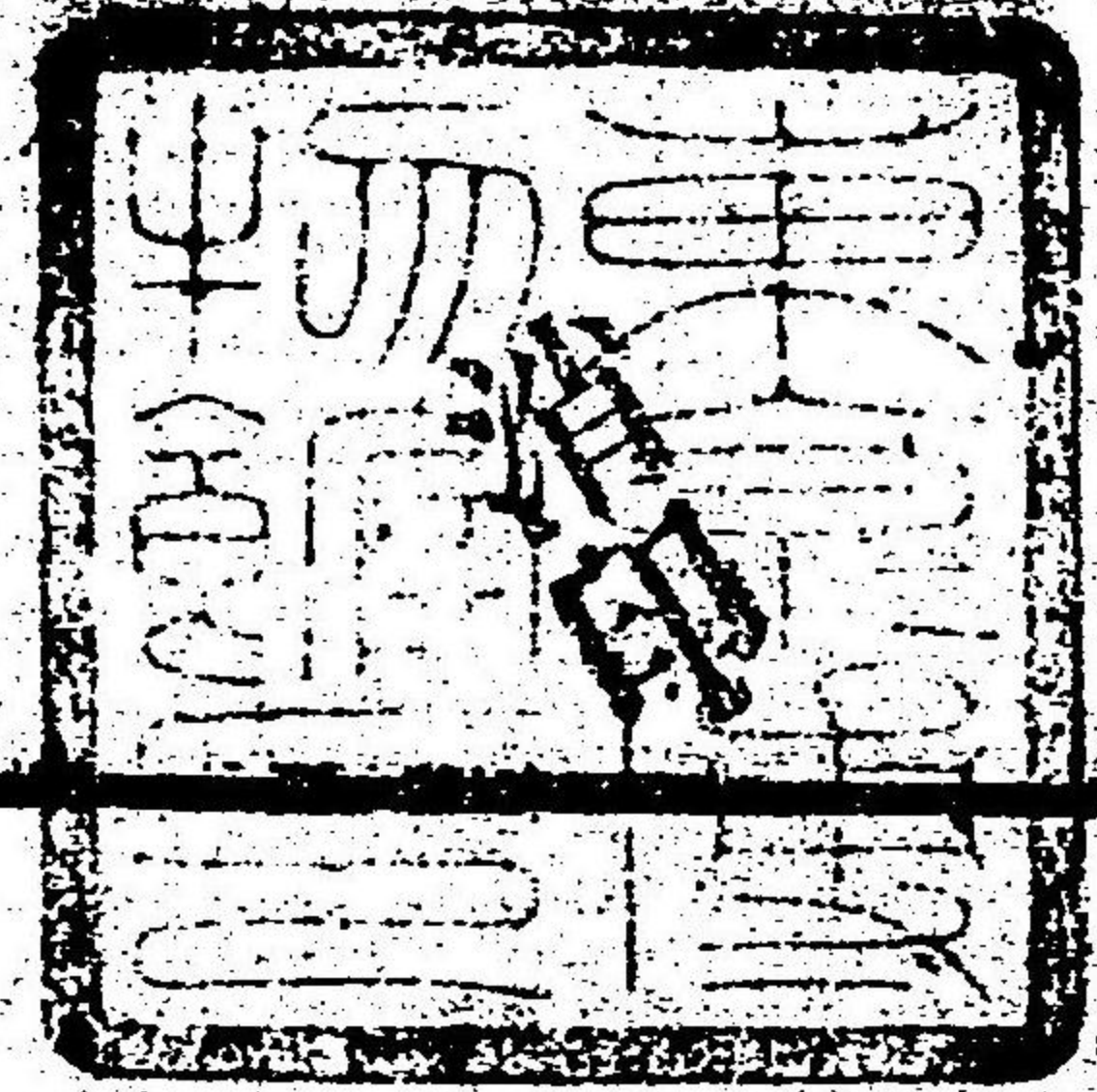
36
4
3
長

類物産
類物産
類物産
類物産
類物産
類物産
類物産
類物産
類物産
類物産

博覽會見聞錄卷之五

購求

第五区



明治九年二月購求

物類
物類
物類
物類
物類
物類

織りの組りの織物ふきぎ糸の於、衣

の敷、衣服小附属するもの、鉄の区

人囃のあつて叶ハぬものあまが諸國

区ふ出ふせざるに、糸とてを他

区、呉服振の如く、獸の毛を糸とありあ

区、絹緞の如く、蘇を飼ひて糸を得又ハ麻

見聞録 卷五

木綿等の如く草木を製して糸とありさぬぐの
 布を織り夏冬いろくの衣服とあり又ハ衣服の
 飾りとあり等其糸さぬぐ糸とが其糸も又あま
 とふ分ちたり
 玳瑁の糸一珠ハ毛織りものふして綿羊其糸
 糸織るぬき獸の毛洗ひたるまゝのもの梳毛揃
 へたる糸と紡ぎたる等より種々外種々の布
 小織ありたるものあらひハ毛氈ブランケットの
 庸婦人の肩覆い布等あり
 糸二珠ハ木綿木綿糸木綿の布等

糸三珠ハ麻かごむしの珠化と茶の織維の糸と
 糸さぬぐきものさぬぐみくねりたる糸の珠織物の
 珠す外葉みくねりたる織物綿もの婦人の帽子
 又ハ蕨糸などの糸みくねりたる糸もの細き法
 金糸織りたるもの等
 糸四珠ハ縞もの糸、生糸及び糸の屑みくねり
 たるものもさぬぐみ
 糸五珠ハ金銀の糸もてねりたる織物の糸又ハ
 縫箔あるもの

糸六珠ハレース
 レースは婦人の衣服の飾あり
 お着くものあり後ハ洋あり

赤七粒をメリヤスの粒よみて編あむたるも機き織り
よて編あむたるもらうよ屬ぞき

赤八粒を仕立たる衣服の粒より帽ぼう子靴くつと袋かぶ等
よ至いたるまで

赤九粒ハ壁掛かべけ布ぬの暖簾のり夜具よぐ等の粒
赤十粒ハ遠とほり花か又ハ飾かざりよ用もちうる多おほの羽はねあり

かくの如ごとく粒つぶ残のこり多おほきもこの粒つぶも入いる
厘ちくかの粒つぶも入いるべきゆゑのゆゑも女おんならうが

るりのハ其出品人のまうりせよふこの粒つぶも
出いるもありかの粒つぶも出いるもあまらうよあまらう

ものも大おほむゆ右みぎの粒つぶも左ひだりの粒つぶも同おなじ
他ほか所ところよ書かきつゝ粒つぶたるもらうりもあま

毛織けりの物ものハ諸國しよこくの出品しゅっぴんいつまも盛さかふして其
工業こうぎょうの次つぎ赤あかも進すすむゆゑ明あきらうよ見みるも

人のためよある事こと少すくららば抑織物おさへりの工業こうぎょうハ
初はじめらうよ心をこころ用もちうる者ものもあまらうて年とし久ひさしく

色いろぎたれども次つぎ赤あかも人の智ちのひらうりもあまらう
らうて人ひと生なまれ必用ひつようのゆゑのあまらう人ひとの思おもひ付つけ

らうて人ひと生なまれ必用ひつようのゆゑのあまらう人ひとの思おもひ付つけ
よを所ところハ初はじめ終はつらうよ西にし三箇所さんかんとよして目めよはく

程ふもあらざりしごとくあらひて返すこと
 かしらふ数多取後くるやうふあり互ひふを
 と覺いしよをよきか上ふもよきを加へ便利の
 上ふも便利ふせんとの糸の紡り方機織り方
 をそとめさうく工夫をくらりて美地ふらり
 日二月ふを業進今今の大盛ふ至りあり
 ころころ羅紗ハ西洋みくは男の服の料ふま
 織物中あて最も行要のりあまはを製造るこ
 とさら盛あまはて其諸國の織物ハ日ごとく新
 製のりの出でさう安の國ハ何とふ長にかしこ

の國ハ何とをさうさういふ中かりがき
 をこの博覽會ふかの持とて一日不見らる
 中ふありたり
 毛織りのりのびりち出でる美潔をあらとふ國
 ころ澳地利ハ自國の事あまはいふふおよをび
 英吉利佛業西獨白耳時苦の國とふて澳地
 利の羅紗ハ極上あるりのことふあまり他國ふ
 て製さるることを得ざるやとあり佛業西
 の羅紗ハいづきも中苦のりのふて極上ふ
 いふものありされども其種数ハいつて多く

つゝ私たり且佛系西のりのハ交易おむくこと
 ろをきまぐくと謀りのあまひく世人のこのむ味
 をかんぐくて織り糸をゆ急ふ諸國ハ輸出せむ
 うし多く他國もくハ佛系西の製をまかふふい
 たる不どあり奥地利のものハ中等の羅紋もか
 らし見苦るーたゞ細袴ふりちうるものハ模様
 むこのりハ佛系西のりのにおくらぬやうふ見え
 たり又英吉利の毛織りの製造所ハ甚だ大か
 るりのあまひも今政持ち越したるものハ甚だ
 女一りー十分ふ力をそめて作りおーこを
 出

品一たうんふお驚くりのも多かるべきあり
 今度の出品の内めて言へば其價の甚だ廉ある
 うれ他國の及ばざる所ありめきて英國も極
 上の羅紗を製するふハ職工の賃他國も倍一甚
 ぶ故合あしーといふさきども格別他國もなる
 といふよハありむ其羊毛ハ屬地より取入る内
 國もて織立交易ふ出せる由らうふアウスタラリ
 ヤヤを取り入る毛たハ中島の織物も宜しけ
 きバかふる所より英國の羅紗ハ下直ふ出来る
 かのあうべー白耳時人も英佛の如く價を下直ふ

他らんと年来ユ夫ーふりふが今ハおりふ木ど
 小初届き頗る下直ふ造る事を得たりといふ
 獨じも南の諸國の外に羅紗の製造所甚ど多し
 さらさらよのつゝの羅紗ハ他國の及ばぬとこ
 ろありさきども別段おもむきあるものふいと
 りてハ壞地利ふハ及ばず又獨じふも別段の名
 物ありそ外葡萄牙西州の出品ハふがくもよく
 呂教も多うりき魯西亞のものもまごありか
 ら亞米利加の合衆國あるハそおもむき大お政
 羅巴小吳あり

壞地利の部おも獨じの部おも羅紗を織る處き
 綿羊毛を糸ふとり又さむぐの色ふ染めたるを
 つゝぬ綿羊の毛皮を五色ふ染たるもあり獨じ
 のゲルンヘルグといふ所のスレス、ヲルス、テ
 ルといふ人の會社よりハ綿羊の毛を染むたる
 まゝのものよりなく染む櫛みくさむき次才ふ
 細くもる順序を出し示せり其會社の羅紗製造
 所ふしてさふ用うる蒸糸ハ合せくは百五十
 馬力ありさて其明治は年一ヶ年の賣る綿羊の
 毛ハ百三十万ターレル 九千九十七万 羅紗は万
 五千円程

包共價百八十一万三千ターレル九百三十六万
 不及ふといふ此會社ハ日本文字にて書き表せ
 織物製造所と書きたるをれをおくすたり白耳
 時の部ふも種々の綿羊の毛あり又英の部小羅
 紗の精粗を水試みざるあり其法箱の如きもの
 の前面と上面とを測きたるありて正ふ試むべ
 き羅紗を並き表すといふとめ女一巾をたるませこ
 きふ水をくくふ上好あるものハ二三日水を
 ぎたるまきふふふといふとも一滴も濁るる事
 ないといふ

其外ゴウラふく、精兵絹、縷子兵絹、收兵絹、縷兵絹
 どのわが國ふて各庄並末まざる毛織り物、染色の
 美しき紋がらの巧みなる彩どりのあざやのふ
 るあど精好緻密眼を驚くことふ堪たり又羊の
 毛ふくをすたる布あり羅紗の如くふしてやハ
 らかあり又サ一の軟も見えたる
 欧羅巴の婦人ハききときハ常服の上ふに方お
 ろく線尺は尺をうすの布を夜るあり靴ふ肩掛
 け布と書きたるものあり各國共肩掛布の
 出品まき少くは國りつとも多し上等ある

ハさぬくの縫ぬいもやうをかー次つぎハ種しゅくの密紋みつもんを
織をり出だし下等したうあるハさらさ深ふかかりあるハ博はく
多たの中ちゆうりある織方をりかたふて横よこぢくは方かたハ天あまの如ごと
く糸いとを編あみ房ふさとありて下げ中ちゆうふな彩さい色しきある縫ぬい
拵もやう振やう密みつふして甚うつくく受うしられボエミヤのリービ
ーグフランチ氏の出でるあり又維納うゐんのミュレルヨ
ハンの出でるハ指さしかきんあどよ密紋みつもんのかうく
さを五ご色しき小こ深ふかめたらを出だしかさをら小調せう張ぢやうの
板いたを漆しへたし右みぎの深ふか形かたわられあておし出でせる
を示しめすなり流ながるふ手て布ぬいを見みまハ批き理りこまうふ色いろ

とりあざやのふして縫ぬいたるものゝ如ごとく織を出だし
たるものゝ如ごとく押おし形かたふて深ふかたるものゝ思おも
はまび又また若人わかしの白しろ羅紗らしゃも其その法はふあくさぬくの
こまうき取とを押し出だせし維納うゐんのマルサ、フェツ
トといへる人も同板どうばんの出でるあり
凡おほ女子むすめの用もちうる上うへハ覆おほひ布ぬいハこゝさらこま
あき紋もんがうふしてこれを縫ぬいひらきを織をり又ハ
これを板ばんあく押し出ださいづきもよきもななく
て叶かハぬものあまば其そのもなとあるべき形かたちを
紙かみ小画せうがうき着ちやく色しきたるあどむあり衣服いふくハ裾すそ小

はくるりやうな拭ふ繕取らるも其外種々の
衣服の飾りとあるべきりの、繕もやうのよ
まど紙ふかきたるを出せし佛の部ふハ繕ひも
やうのかさつゝふ各其よ本の画を添へて出
たる人もあり

又塙の部ふ右の如き上ハ覆ひ布並ひふられを
織る器械を出せしこの器械ハ蒸氣の力を借
ふもあつど又水車を用うるふもあつど唯足ふ
てふて器械を動かすものも器械ハ大うとわ
が國の糸むとありの如くふして幅ハ五尺もあ

るべし左右ハ曲尺も寸むつこの様いくつもあ
りてあつひハ思あつひハ紅等種々の色の糸を
糸まじりたる様を取る仕掛けありこれまじり糸を
たありの如くあつども様をあらうふものまじ
ふおくよ及びびを織あつき紙ふまじりき穴いくつ
もあきたるを織へこれが入りわいもくまらふ
て様をあつあつこの様よまじり色のから
さあどさぬくふみりもたる英しき形を織り出
せ外かさをたくき様を授けあどまらるも器
械のあらとらるも器械の運動をおつらハ

足あぐふむのこあり
 木綿の糸よりしてつらつら糸二匹の三匹より
 出し綿を製して布を織るの如くふし液を細
 くして遠くかかきん糸とまきわ大てい蒸氣機
 関のあつらひあきら糸十三匹よりして検査堂
 おつら糸たるを又機械にかけて遠く細くつら
 多てまきわ液をたぐり糸匹ふも出せり
 元々木綿糸ハこのたび出さしたるもの肉ふ
 てらアルサスといふものつらりの糸一あり圓
 堂の北の入口のところにあらべたり糸教ハ裏

糸も愛しくして英吉利佛景西に及バぬも
 のありこれらシランベルゼルの社の出品あぐ
 ヘルマンといふ人の発明したる糸作り機械を用
 い二十八年前のころこれ製造したる由糸を
 取りおさげいさして白くまらる等皆機械を用う
 る如く英國より外ハこの地に及ぶといふ周
 いふヘルマンの器械をその比より世界にひろ
 まり毛織り物ふも緒物ふも用わ万車仍届きた
 るものふといふやどうつくしき質のものふて
 ころんふらざらば極上のものといわあり程

ののといふ又アルサッスの妙なるいふ傑色の美
 しきあつて縞糸のとおりのあつたり其の丈夫な
 る事此のきりのあれが手袋織りももつたり
 く縞糸ももつた由
 次を佛蘭西英吉利瑞西の木綿糸もつとも美し
 獨つてよつと出でるものハおきハ甚だうつくしけ
 きもも細きハこれふ及びおび然もも共ハケ國
 木綿糸を製するも次オ小巧ふある由西洋人
 の説あり

亞米利加の合衆國の木綿の製造世界第一と云

えーのいふのたびの博覽會あつたきりのハ持
 渡らざりつとも先年佛蘭西の博覽會の時も格
 別これカをいささか由あり唯綿のまゝふ
 て列らねたつた多あり

木綿あつて織りたる物おきんさつたりカ
 きんあやめおきんハさつたり紋おきんの真
 白あつたり色の如くふして光澤あるハ白縞子の
 と疑えん雲高の細くして精ある紋羽のやつら
 りきあつたり遠目お花縞あつたり色小倉や
 うの織り物の信紋がらの取り合せよハ細縞地

おと厚地の羅紗ふまぎの汁り緋がふきんの真紅あるさらさの紋が色どり美しく又ハ棒襦あぶあいてそ囃又花鳥あどの形をつけたるおとハ上好の絹布おと思ふむらさきあり又尋常のさらさら多く見えたり
 獨ヒベルリンのダン子ンベルグといふ人の社の木綿製造所あつハ職人に百五十八人ありて明治は年小賣出ーたる言二百八十万ターレル元々二百小及びー由
 アルサッスに元来佛業西の領地ふして木綿製造

小於てハ才一のとらありーの明治三年は年の新めく獨ヒ小取らきあり
 この地の木綿糸ハ前ふもいへるおめく又木綿織りのもりつとも美し先年佛業西の木綿製造の業甚ぶ衰へたる比政府より觸を出して他國より木綿糸を輸入する事を禁一のども自國の織場女も盛よあらざりーあハ又共禁地弛めて織元を励まーまよるそやぶ決才小進こ今日の盤昌おわりのりーいふ
 莫吉利の木綿布を家内の道具お用らるりの画

中うも毛どりの他ふきらまて美し又裏地の木
 綿もろとも妙あり毛怒た指の如くあり綿天我
 俄たむのしり英園の各産といもれたるりの
 あく今獲才一あり暖簾に用うるりの白き黄色
 あるあど木の糸草花あぶの彩り美しくま價は
 下直あれが評判こくふと一
 佛業西も木綿の製造ハ次才ふ所ニある由あり
 まぐて佛業西のものハおもむきの産しきる他
 國ふすまじり所の中りあるりのあく和く
 凡の透るやうふかしたるあま美しくて丈夫あ

りといふ外下直ある木綿扱りのらもふら一
 きあり佛業西の木綿の布ハ和くうかるら
 く一きとふ放く英國ふもおさくおととを
 瑞西も糸と織物との國中のものともまきかの
 扱えらみて扱出たり
 櫻しハ近年木綿製造の業ここの外まみたる
 と一も出あハ十分といふまでふわいらざん
 ども中く美し一とさうら格子袴の細袴地ハ下賤
 のりめく新製とあるといふこも色た扱ひのグラ
 ードバツといふ所あく製造さるものあり又木

綿の平ららの紐おりの南京織といふもの如き
 ハ下直ふして美し綿天鵞絨も英一く多くたり
 西洋人の説ふらまうしハ近比かく巧くふありた
 るゆの由あり勵次方あく巧くふある事知
 るべし但し細地の織物ハさまをふいぐらごと
 いふ
 まぐて獨びの法國さくら奥地利ハ人民のく
 らしめありさぬ英吉利佛萊西等の法國とわか
 るもむき英あるさる木綿の製造他國ふ及ばざる
 とらありさぬども奥地利あくハ近比ら製ハ

ら佛萊西をさかると獨乙あくるさる心づき
 志きり小坂わきをさくむら故よ数年の後を盛
 小かるべしといふ
 白耳時ふも細袴地の下直あるあまとも獨乙ふ
 け者さる但し木綿の層ふく製したるものハ其
 女際さくらあり
 魯西亞ふら近年まで木綿の産物あつた
 づらわ其わがまさくく蜀小進し由さ出ふの内
 緋わかきん緋わかきん糸は黄しきるいそんが
 あり

瑞西も佛萊西の如き細地の木綿を織り出さる
 力を以て用うる由あるも其 outputs もまことに美しこの國
 ありて多くハ機械ありて減るなりあり
 澳地利人於此の outputs を見られを論議一德國お
 のく他國ふまざる別産の産物ありて自國を以
 りられなきをあげき新聞紙ふその事を論じて
 いふやがの國の木綿ハ外國のものあり英吉利の
 リバポールより輸入するものありて多しやが
 國ふもこの工業をおこしなりのあり自國小
 製造所を立るの利ハ莫大なるものありて雜費も

かりとす種々の不都合を免らざるも其は木綿
 製造のやがふかりてちる學校を一日もふく國
 内お設けなりのあり國の人殺くわく心
 をとめよと書きたり嗚呼我日本おあつて
 もさうらさめかきんの美しくして價も下直ある
 を以て近來輸入次第お増し英國より輸入する
 事明治元年ふら木綿糸二十六万七千二百五ポ
 ンドステルリング 九百二十八 木綿の布ハ三十
 九万六千二百ポンドステルリング 九百九十九
 あり一も明治三年ふりて是てハ木綿糸五十九

万五千五百二十一ポンドエステルリング八十二百
 の余 木綿の布ハ五十七万五千五百四十五ポンド
 ステルリング九二百七十にハよミるやが國ふて
 此木綿を製造セする物サも多クありあがらハく年
 く小輸入の増マさるキ款キくハきノ至リあラむハや
 が國の人ハもシくハ新シくハらハくハ心ヲとシむベし
 世界万国ハもハ富メるハのハ寡ク貧シきハの
 多クけキバハ上等ノ絹ヲりハ直ニあル木綿ハを
 廣ク坊ヲりハのハあレらハ博覽會ノ中ヨり
 此木綿をハ出スぬ國ハぬク又ハ木綿ハをハ盛スるハ出

品ハあリ万国ノ工業ノ内ニあリつトもハ盛スるハ
 をハ知ルべシ元々素々木綿ノ工業ハ東方亞細亞ノも
 のハあリて西洋ニあリ入用ノのハあリ心ヲ付シハ
 元々龜天正ノ比ハもハあラん今今ヨりハ九百三百その
 ちハドメめハ獨乙ふシてハらハふハサキソニヤフてハ次
 工業を興スしハ又ハ英國ニあリてハ次製造ヲ始メし
 がハらシてハ東洋ノ諸國ニあリ及ビぬ事ト思ハふハ志ハ
 らハくハ次業ヲをハさスむハるハをハ允タりハ元々禄室
 永クのハらハ年ハ比ハ七百ふハ英國ニあリてハ議事院ニあリてハ決
 議ハしハ外國ノ木綿ヲ輸入スる事ヲ禁止すハた

了さるべし其法もく其業を興さるる時ハざんた
 寛延寶曆のころハ十年比 申すべし格別仕出さる
 もなく獨乙に唯その工業をさるるむるをばは
 め一故もくも其國の産物とありたるをさるる英國
 もく木綿の工業のさるるまじりて沃を全く職人の
 賃積の不廉あるふまじりて由て後機織を發明し
 製法を大に變革せしむるも木綿ハ今ハ英國を以
 て製昌方一とさるるも至まり
 其外歐羅巴の國々佛蘭西白耳時瑞西獨乙等ま
 に英國不覺のていづも其工業日毎小廣くあ
 り遂よハ魯西亞もかくの如く感ふられを發む
 るも至まりと又同一新聞紙も裁せたるも其を
 見くもわが日本もてハりよく其わざも心を
 う勉き事にならむ

麻もまじり諸國よりと出ぬせらるるハ糸のまじ
 ありありハ布も織りたるありハ細も打ち
 たる等も細くあり魯西亞の麻も精好ふして生糸
 の中より見えたり 澳地利の糸も麻の如きも
 のをあまりハわけあへば澁の中よりふつと糸たり
 其下ハ葛もつづの如きものをつつと糸たるハ其

系質を示せるあるべし又新則其六の産ふホルニエ
 ム一名ねニールウゼーラ、インド、フラックスとりくる
 ものあり其多は昔蒲の如くふしそ丈支あり水
 地ふ生ぎるものといふ、これをさうらして布とか
 せむ麻の如くありやが國ふても麻、苧、麻、葛
 芭蕉の外さぬぐのもの黠しあて布を織
 り細とあるようふそ製法たよしくせは英番
 の布とあるべし獨乙の部ふち松より製したる
 糸ふくめりやひ志ゆをんをおもあるいはこれ
 ふく布おどをりたるもあま又麻の落くして精

好あるふさぬぐの縫をふし又ハ種々の挿振を
 深め種々の紋かろを織り出したるふど猪羽ニ
 重の如くえゆるあり魯西亞と英の匹ふハ麻布
 あく至て堅地あるありられをたくけは手音木
 の如く獨乙之部ふち幅布とんどは留もある
 き帆布を出せり
 獨乙の諸國より出せる白麻の如くしより其
 國の名物ある由こふ細地のりのハ極上の糸
 かろありささぎも中ふお織上げの色合ま白
 あるべ地合のやろろあらざらもあまどは近

年ねんの進しん歩ぽのさぬをるるべしといふ

サキソニヤむむりハ英工業もかまご盛んか
る國ありীগ今ハ澳地利のわざ進しんきたる故ゆゑふ
らんふね及およバざるやうふありたり麻の製造せいぞうは
澳地利佛業西の兩國をりつてオ一と称なづする由
あり元来佛業西わりといり他國のよおたるも
のあく衣い靴くつ其外家財等ほかけざいとうふ用うるりの其品しんがら
のちらしきハいふふ及およハびりやうおりいらく
しておらむきあり白耳時はくじたまご麻の製造せいぞうをよ
くも襦袢じゅばん夜具やぐ細袴地さいかまぢおどふ用うるもの各品かくしんがら

上等ふして織オリ上げ英あく價あひも下直ゲトキあり

英國よりのハ白麻帆しろあしほ木綿こわた役引地やくひきぢおど出せりそ製せい
他國ふ越え輸出しゅつぷもまご陸ちく多き由よしさもごも獨ど
び佛業西ぶつごふせいふ及およバざるものあり魯西ろせいわいまご
妙たぎふいさらしざもごも襦じゅ進しん歩ぽまごきやうもあ
り瑞典すえんより出せり帆布かほハくさうら美ト
魯西ろせいの新あらたふね船ふね綱つなを長さ二尺をうりゞふ切
り一く名なをはきつて稱なづする

其外船ふね綱つなハ海軍かいぐんの新あらたふもつて稱なづ又英あ区くふもつ
らぬ幅はらみを尺三寸の平綱ひらつなあり蒸氣水車じょうきすいぐるまおどの

運動をうらむ草掛け車の草不代用をうらむもの
 り又麻ふて作りたる提籠ありいハ麻ふて作り
 て茶色萌黄などふぬりたる籠もあり

填地利の南方の領地はクローチヤ、スラフニヤ
 といふところあり其地の出品ありてのこまざ
 る器械多し麻を紡ぐ器械なども甚だ多し
 ものふて足ふて踏こて車をまはしうれふもの
 をうくる仕掛あり

婦人の帽子たストロトといへ麦わりのやうな家
 りのふて作る男の蓑の帽子も多しハ、こまふて
 作る精あるも粗あるものあり麦葉をわわ
 國のりのとかハりなきやうな見ゆ但し白く
 て造り敷物もこれあり作りたるを多く出せり

襦袢の部よりまふくさぬぐの物を織出し布の
 如く一たるもあり其布も婦人の衣服を送り
 ましこの人などの人形も着せし系せりストロ
 一あり花を送りたるものあり

生糸は諸國の虫糸よりまふあきこしハ以て利の
 ものもつともよりといふ當時の相場ハ日方百
 目不付七糸むらりありわが國の生糸も其性質

ハよか、ぬよあ、後とも製法、さら、あ、ぬ、放
小モ賣價ハ大、小、下、も、

以、利、地、利、ら、い、づ、ま、も、蠶、を、飼、ひ、糸、を、化、る、学、

校、を、た、く、其、理、念、を、お、ゆ、る、故、小、年、月、を、経、る

小、ま、と、う、ひ、少、少、小、精、好、よ、あ、り、ゆ、く、あ、り、繭、を、

ま、ふ、も、日、死、小、せ、ぞ、火、の、ま、と、蒸、ま、と、ふ、て、虫、を、殺、

ま、さ、く、繭、より、糸、を、引、出、ま、ふ、た、ま、繭、の、性、質、と、織、

物、の、種、類、と、ふ、う、を、て、女、く、変、ま、と、も、大、抵、繭、は

ッ、を、一、筋、ふ、ぬ、る、由、あ、り、糸、を、製、ま、る、ふ、た、蒸、糸、機、

械、を、用、む、く、糸、篋、を、ま、ふ、一、あ、ら、い、ハ、管、を、以、く

蒸、糸、を、導、き、繭、を、煮、る、鍋、の、中、の、水、を、沸、騰、し、

水、流、ま、の、熱、合、ら、り、き、と、ら、ふ、て、ハ、盡、く、水、車、

を、用、う、今、ハ、造、く、工、吏、を、ら、り、一、層、糸、屑、繭、を、あ

つ、多、く、種、く、の、器、械、ふ、か、け、て、精、製、し、徒、操、あ、る、糸

と、あ、一、天、竺、機、ふ、ど、び、減、り、あ、ら、い、ハ、總、糸、ふ、り、用

う、る、由、あ、り

緒、を、煮、ま、る、國、と、た、歐、羅、巴、も、ハ、以、右、利、の、北、の、新

佛、系、西、の、南、の、新、羅、牙、國、匈、西、國、の、南、の、都、土、耳、其

希、獵、魯、西、亞、の、南、の、新、あり、これ、小、次、く、り、の、ハ、奥
國、之、北、の、新、獨、乙、の、諸、國、瑞、西、あり、北、方、小、産、ま、る

のりも南方のりめく如く美しく且柔らうかり
 さてきせ産るハ以たりハ百六万七子二百貫目
 夜佛糸西ハ百十二万五百六十貫目夜瑞西ハ十
 七万六千六百二十二貫目夜獨乙ハ十五万四千
 七百四十貫目夜維納ハ四万百八十貫目夜赤
 以たりハ布ハ琥珀孺子ぬ免の敷もつとも勇
 天我も俄又ハ窓紋のおりものあどなたぐひます
 美し縞布ハ諸國各付番をよそひ出せしが壞
 國併國のりめくは精なり琥珀那内のみきり

の琥珀の中りみくを地ある縞孺子縞縞紋紗の
 縞を織うとたるぬ免孺子の如くふしきハめ
 て蔭きりのあるハ縞糸あて小倉の中りふ織
 たるりの又ハ厚いとのごきりのあるハ海
 氣の如く蔭くして光りあるりの天我も俄ハ黒
 美紅緋萌黄茶蒲等のいろくそ外紋天我も俄縞天
 我も俄毛切らむ天我も俄あつハ金紙をりらした
 る又ハ花鳥を五色小彩りたるあどいづきも糸
 ふいさくのむらまゝ深色うらくく摺柄りら
 たりあどやのあて美しきくいとんうさあ

又ハ綿糸紗綿天裁絨糸ど價の廉ある故主とま
るもあり

元来政野巴みく絹布を織る事ハ以右利よりを

トまき佛業西におよぶ佛業西王ロイス十一世

といへる人られん必用の工業と思ひらみさ

由ぐ力を用おてうきを盛よせん謀り應仁文

明の比種く布告を出し其業を保護したり其後

天文年間小以右利小内礼ありうばきららの

佛業西王フランス初世おこの折小業して絹布

の織方の秘術をその國小得んとて以右利のせ

ノアといへるしうらの名工を咄入きん事をつ

とめたりうきまの佛業西のリオニといふと

らの絹物に以太利ふもまけぬやうふあり貴蠶

のるも次方ふひらけ糸をいあまし植させたり

リオンの人た才もあり思慮もありて工支だこ

らに性質あまが織方が過ごを紋がらの附布合を

考さうくの奈明年ごうふ出て金根の織物羊の

毛を交へたるりの綿緬の疾絹唐棧す外あらと

ある織物を工夫し出し日毎ふ盤冒ふおもむき

一が貞享二年十八年他の宗旨を禁制ふしたる

時この職人どもは多く英吉利獨逸瑞西和糸等の國々も逃まらざれば織布製造の法もこの時より諸國ふいらまり一由りオンの製造所を一旦衰へたり一あども天明寛政の比代々七百年ふありて又盛ふあり他國の及ばぬところとありりその後兵亂ふて再び名工散れ一たきどもいくちどもかく刺の姿ふありまわざりし盛ふありて文化の末文政の初めを業とするもの一二万軒あり一の今ハ十二万軒ふ及ぶといふまゝ一五年ふ用うる倍糸二百二十万キロ八十五

の余ふして織り出たる品数ハ億六十万箇の事を外國ふ賣り出さるるの三分の三より多うと一由さてかくの如く盛ふあり一ハ一ツの糸のよりゆき届くふもする事ふくマル千ニユールといふところの學校ら織り職染物職棧棧職等を教ゆるりのふて教授料を取る事なくして學ぶるを得るりのありサントラール學校は近比ひらきたるりのあきども中々盛んふありた由サニピエールの學校ふてハ書齋その外職工の術を教へ又画をかくりばも教ゆるといふ織

物も紋がくをふくがためふきりりのありある
 いわ女子も織物等術あど教ゆる所もあや又博
 物館文庫も絹布製造のためふ設きたるあり
 魯西亞も織物等物等のふふらる繪あり又金
 銀の布の無地あるも紋がくを織り出たらるも
 あり
 又獨乙の新ふにみ歳をのりその児の眠りて居る
 きぬを縫ひたらるあり顔も是と油繪ふて書
 き衣服其外ハ袴もぐりやうの糸ふて縫ひ出せ
 り又裾ざりの如くふてきぬくの繪をふせらる

山あり
 奥國のジュンシナルツといふ人の製花所ふて
 あまこの絹真田を織り出せるよそ製造場の
 所あり三階作りふて蒸氣を用おて織るなり
 懐せまき細布ふて英一き縫あるありこきまき
 衣の縁りも用うるりのあり
 線條といふものあり英活ふてレースといふ
 りのあり婦人の衣服の襟袖は裾あどふ廻りを
 取る等も用うるものふてあらひハ器械ふて
 織るも一又ハふくあともきらかりそ飛たか

らくさ又ハ七宝花装つまぎのやうなる牡丹又
 ハ菖蒲の如きりの又ハ蝶ふどもあつて其精好か
 るハ迎くもろふあらざるもバそあや掬振を祥の
 ふるるるのできぬ不どあり又薄くして蟬翼の
 如きもあり吉野紙の如きもあり白耳附の上品
 ふもつとも精密なるりのありなハ油引の薄
 紙小織るぬき紋からを黒く画きたるを用うこ
 の形ハ佛系西ふもあり奥地利ふもあり匈加利
 の形ふた編くこのもつづきを示せらあり蝶の
 形ありをじめハ羽の外のりと鱗の外のりと
 をたき糸あて後ハ次またいさゝの細き糸あて
 糸又ハ羽の條あてを後ハ珠の如く又後ハ九
 回して全く成るありこきを編む木あて作り
 たららるるまきらの如きりのふ形をまねられふ
 針あまこつて次分ふあてはゆかり甚て丹波
 あるりのあり
 めりやまた福祿靴下も感考あらひハ小児の衣
 あてをきこらまのきこ種類さぬぐやして赤き青
 きむらさきあら符をあて出せるもありふたか
 どの如きかこをあて出せるもありあらひねつ

ラ子ルの毛みり製さるる多かり
國の紋兩頭の鷲をめぐり
布どよく彩りてあはせらるるあり

又仕立たる夏冬の衣服をつつ
筒袖細袴上ハ羽織短羽服あはせ
等みりおのづろ各國の流りも知る

利の鮮のある佛業西白耳時の
の優ある國の古風よして花菱あ
小見ゆる婦人の服ハ袖細く胸狭く

立のよきハ襦袢やきしこの人
りらまふ着せしき嗜好の善きを

ハいふおよばど諸官負の用ゆる
官の軍服礼服の帽礼服のた乃

平ら金全係海陸武官の服の袖の
衣服の仕立騎兵歩兵砲兵樂隊

の製をあらしいハ襦袢かかゆる
を人形小器せし姿を示すもあり

西洋衣服の流りハたんに佛業西
よきおらる由さるる佛業西人の

しとさら新振ありといふ佛の
新振ありといふ佛の衣服の

女衣服の裁ち形の冴あまきとせり

其外此部不属さるりのハ附^つ布袖^{たもと}附^つ布襟^{たもと}えり紐^{ひも}

襟^{えり}卷^{まき}リン子^こン製^{せい}の白^{しろ}襦^{じゆ}袢^{たん}わが白^{しろ}毫^ご姫^{ひめ}不^ふ當^{あた}るも

の又^{また}ね下^{した}岳^{たけ}のフ^フラ子^こル襦^{じゆ}袢^{たん}洒^{しや}落^{らく}不^ふ当^{あた}るさる

の紋^{いざな}から押^おしたる色^{いろ}襦^{じゆ}袢^{たん}男^{おとこ}女^{めづめ}の襟^{えり}紐^{ひも}あるいは

悪^{あく}あま^{あま}い^いな種^{たね}く^くの妻^{かみ}り色^{いろ}深^{ふか}め^めたる形^{かたち}のあるも

あり縫^{ぬい}せしりのも女^{めづめ}うらむ婦^{つとめ}人の夏^{かき}ぎぬうを

衣^え大^{だい}礼^{らい}服^{ふく}の落^おちものもうらふつ^つ糸^{いと}て展^{てん}覧^{らん}を

是^{こゝ}部^ぶの部^ぶ不^ふ婦^{つとめ}人の狗^{いぬ}ふあてるりのを沃^{たく}山^{さん}よ出^で

せらありら^らま^まを狗^{いぬ}より上^{かみ}へ腹^{はら}ふ卷^まきて姿^{すがた}をよ

く^くさ^さら^らた^たら^らふ^ふさ^さら^らりのの^のあ^あま^まく^く匠^{たね}分^{ぶん}解^{かい}のためふ

もあ^もし^しう^うら^らざ^ざら^らりのの^の由^{よし}種^{たね}お^おも^もさ^さま^まく^くあ^あま^まて^て袋^{ふくろ}

し^しき^きりの^のあ^あり^り紗^さあ^あく^く飾^{かざり}りをあ^あし^したるりの又^{また}ハ

わが國^{くに}の警^{けい}劔^{けん}家^けの用^{もち}うる胴^{たね}の如^{ごと}く革^{かわ}の細^こ長^{なが}き

を糸^{いと}を掛^かけ^けふ^ふしたるもあ^あま^ま夏^{かき}分^{ぶん}用^{もち}うるりのの

地^ち合^ああ^あら^らき織^{オリ}物^{もの}あ^あて^て化^{くわ}り^り風^{かぜ}の透^{とほ}る^るや^やう^うふ^ふせ^せり^りな

のう^のち^ちふ^ふ是^{こゝ}部^ぶの^の紋^{いざな}と冠^{かむり}と杖^{つゑ}縫^{ぬい}う^うざ^ざり^りたるあり

う^うれ^れそ^そ女^{めづめ}王^{おう}の用^{もち}お^おた^たら^らりの^のあ^あま^まく^くあ^あま^まと^と唱^{なげ}せ

そ^そ又^{また}此^{こゝ}部^ぶの^の男^{おとこ}の^の帯^{おび}を^をも^もつ^つた^たら^らも^もら^らま^まも^も解^たの

拾^ち好^{こう}を^をよ^よく^くま^まら^らた^ため^めあ^ある^る田^たさ^さぬ^ぬぐ^ぐの^の物^{もの}好^{こう}き^きも

あるものあり

婦人の帽子はストローに製しあるいは蔦縞
 あり送りよふに美しき鳥の羽の踏むの毛あど
 五色ふそめて飾りとし又は帽子を用おどして
 飾りものをもつくるもあそりらも甚く花や
 のあり男子の帽は第一を飾りしもの
 ありして外に飾りあきりのあそりらもあどいハ横
 ふ孔雀の羽のをさしあどして飾りあそりら
 ありしつわふさぬぐの飾りをつくるやうふ
 ありたりは地利の部ふさぬぐ美しき帽をつら

ぬる者あり雀の全身又は象鷹の爪雉子の尾
 などを飾りたり雀のまじりしもの羽の小物を
 たりたりものあり

かゝる飾り帽のいあらむ男女の靴ふもつく
 るあり燗國の靴小靴のい列ら祐たるところあ
 り尋常の長靴短靴吐しき靴コト靴婦人の靴兎
 どもの靴あどおびたぐいあらむたるあろふ
 白糸あどかららき茶花木の花あどを爪先よぬ
 ひたら男の靴あや又右の如く縫に華のまど靴
 み仕立がうらむかどいふつぬあろひハ滑し

革か不ふ種しゅくくの紋もんかかるるをを布ふぬぬきき白しろ茶ちやぬぬめめ紫むらぬぬめめ
 淡あ黄さぬぬめめああどど皮かわままのの一ひとふふ一ひとたるたるああまま婦む人にんのの靴くつ
 不ふ至しりりててのの縫ぬい箔はくををかか一ひとたるたるももああまま又また造つくりり花はなをを
 爪つめ先さきハハささららああまま睡ひささでもでも飾かざりりああままいいハハ英えい一ひときき
 鳥とりのの羽はねののりりてて装まいい駄だ鳥とりのの毛けをを五ご色しき不ふ潔けつめめたるたる
 ををももてて飾かざるるかかどどええるるのの其その靴くつああららをを意いららくくをを
 ううでであありり

又また袋ぶくろのの種しゅぬぬめめりりててるるももああまま礼らい服ふく不ふ用ようううるる白しろきき革か
 ののりりのの毛け初はつとと一ひとてて落おくく一ひとてて鞆たもとああるる革かののりりのの毛け
 一ひとままくく一ひとててややりり一ひとつつかかるる革かののりりのの落おくくささめめままや

ををああまま種しゅアアたるたるああままいいハハ履らひ紗しやのの極ごくめめくく落おくくささめめままや
 一ひとままくく一ひとててややりり一ひとつつかかるる革かののりりのの落おくくささめめままや
 前まへふふのの如ごときき種しゅアアたるたるももああまま
 靴くつ下したもも美うきき指さ糸いとああまま編あみみここああままいいわわささぬぬぐぐのの
 形かたちをを編あみみここ出いででああままいいハハ種しゅいいりりややりりああまま一ひとせせ一ひともも

ああまま種しゅ地ち利りとと英えい吉き利りのの部ぶ出いででるる
 壁かべ掛かけのの布ぬのふふわわのの國くにのの綴つぎままのの錦にしきのの如ごとくく人おん物ぶ山さん水すい
 のの景けいををななどど織おりり出いででららあありり地ちおお毛け織おりりああまま一ひとせせ一ひともも

まま持もち多たををりりのの如ごとききささめめああまま一ひとせせ一ひともも一ひときき人ひと
 物ものりりああまま一ひとせせ一ひともも一ひときき人ひと

のぞめど 油繪^{あぶらえ}ありと疑^{うたが}ふをのつとあり
 布^{ぬの}小^{ちひ}油^{あぶら}画^えやりの形^{かたち}を織^をり出^だすは佛^{ぶつ}系^{けい}西^{せい}より初^{はつ}も
 手^て織^をり方^{かた}ハよのつひの布^{ぬの}と違^{ちが}ひたしハ簾^{すだ}を編^あ
 むおめくたてふはる置^おき傍^{はた}ふよき油^{あぶら}繪^えを掛^かけ
 こまじ見^み念^{ねん}せよ本^{ほん}と同一^{どうい}色の糸^{いと}をさしそ紋^{もん}が
 ら杖^{つゑ}編^あと出^だせるなりさるは主^{たぬ}母^{せい}誠^{まこと}いよ愈^いくも
 あくぬりのあく一枚^{まい}の画^え布^{ぬの}を成^{なり}熟^{じやく}するふ女^{むすめ}
 此^{こゝ}三年^{さんねん}久^くしきわ十年^{じゅうねん}しかる由^{よし}あり
 又^{また}布^{ぬの}小^{ちひ}彩^{さい}色^{しき}の繪^えを著^つき綴^つせの錦^{にしき}の如^{ごと}く織^をりた
 るものうと思^{おも}わしむるやうせしもある西洋^{せいやう}人^{ひと}

以^も画^え小^{ちひ}巧^{たく}とふして彩^{さい}色^{しき}法^{ぽう}ふかぬ一枚^{まい}ふかく
 しき布^{ぬの}をあせるあはさきまばかり物^{もの}ふあぞらへ
 んと思^{おも}わく画^え法^{ぽう}をひらきてそおむむきを知り
 名^な画^えをりて本^{ほん}とあはさふあるもの

ボエメンのアドルフ、ヤーコフといふ人の出^い
 たる壁^{かべ}掛^かけ布^{ぬの}ハ羅^ら紗^{しや}ふして中^{ちゆう}小^{せう}填^{てん}國^{こく}の紋^{もん}所^{ところ}か
 る両^{りやう}頭^{とう}の鷲^{じゆう}を後^{のち}ハ二^に重^{じゆう}の縁^へりをぬい周^{まわ}圍^りふた
 舶^{はく}来^{らい}羽^う敷^{しき}の花^{はな}の如^{ごと}きりのをりづまも羅^ら紗^{しや}ふ
 て後^{のち}ハたりま花^{はな}も葉^はも浮^うき上^{うへ}事^{こと}後^{のち}ハあてま
 しの物^{もの}をのせたる如^{ごと}くふせり又^{また}金^{きん}線^{せん}みてもく

の縫ひ成ありたる蓋掛の如きものあり花鳥か
らくさあじの紋がうらまやのふりて細工も又
うこの外も際ありかゝるものあましくかけあら
たるとりらへ美ふ黄金の家ともいふ趣きやう
ふんええたる

以右利ふしかゝる金線の縫ひものありそよ際
よき事いふ趣くもあうを以太利たかゝる事小
敷とも器用ある國と見へたる
あうたんの如くふりて大あるものあり長さ五
指一尺三寸五分幅二指四尺八寸五分を價一千フ

ローリン 七十円 あり又うらまをいさゝあ
小あらし六百フローリン 十州ありかく最大
ある物ハ和紫の部ふも出たりあうたん花毛種
の如き布きりのブランケット又も蓋掛けの類を
所ふあ

敷物扱を沢山ふ出りたる國々支那印度希臘
百兒西土耳其ローマニヤトルクスタン等あり
その内品がらうらうく模様も美しきハ百兒西の
ものあり此國を昔より敷物製する事名なき
國より他國へらうらふなづさなるもの由を身

一若才二若のちのた毛を長く織り上たるりの
 才三若ハ現在欧羅巴よく製造する通例の品ハ
 似たり才は若ハ旅行用の衣提幸あどを作ると
 のありころまハ百鬼西の南ありの地ふて作るも
 の城最上とく其他合厚く丈夫ふして深名のか
 けざらりのあまバ世人甚ぞうれを喜ぶとい
 ふニヨラサレといふ所より出まのハ模様異
 く地合薄くして滑らかな糸この外すけけ
 もだ極丈夫といふふたあうざきとく欧羅巴人
 大よとるを愛する由アトレックといふ河の

不りの町より出せりのハ地合らまのふして
 丈夫あるもの世界才一といふ但一色にいさう
 好くあきて抑拍ハ唯真直あら線あるのこ
 其外地合をいそののよりきりの鞆一々陳列を
 られをえまはるの國産物の製造さあんあるさ
 まもえくる

奥地利人のいふ百鬼西の産物の美しく且夥し
 けまも其業々昔より遠く考よりとつて一
 百年最ふ製造したるものをもえまは今日作る
 所わとも及バぬり明らうかり楮地の産物

昔の成金ありしが今ハ殆どなきが如し又欧羅巴
ふては着物に常小百見西裁手本とし其形を学
びたれども百見西の職人の都て自國の風を推
して欧羅巴のりのふ擬まらりのあり惜しむ
き事あらざるやあざりしり
百見西ふかくのめき織物を復す自國に産
まざる獸の毛を用うニルゴロといふところの北
羊の毛ふく織るりのりらとも異しといふ又
き木綿糸ふく織りたるりのを糸もど丈夫ある
あり

アラアレといふ所の産のうらふ地合あらく
て流布ありきりのありしか欧羅巴の商人先年
中いろく遊覧して改正せしめ今ハ小形ふ作
度々の廣さふあつて自在に縫合のさやうふ
したり其縫合せのころらの地と同一なりふ
縫りのを糸もどいふ印度百見西ふを地と同一
糸糸あて縫合せを糸し又ハ縫糸を糸を等
社を設たりといふを價わ一メートル四方
和糸の通金二三ジェカーテンの端ある由一尺
に方の錢程を極上あるりの一枚の價は十ジェ

カーテン 九月六十 あるもあき
 百鬼西ふゆ永久の居處を定めを漂泊する婦人
 あき天幕を掛ちあきあきおのの欲らるるもあき
 られを法りて小座とあきあきのあり此鞆よく長
 毛の敷物を作る由おののまが任む天幕も思き羊
 の毛ふりおりのやうのりのを織りこまきをり
 て上を掩ふ故お雨の漏る事もあきといふ
 西洋の女子は老たももわのきも皆改ふ種くの
 花を裁きて飾りとを薔薇山茶花の如きりのい
 いふもさうらあきあきいハ萬の茶菱の穂あども

直ちふ頭ふ挿しあきいハ帽ふはあきあき男
 も花を指織の鉦の孔ふ挿し飾りとを風俗あ
 己志くもども真の花は剛と易けきバ作り花を
 ろつてわざりしもあきあき多かり作り花にあ
 きいハ紙あき遠りあきいハ楮あきあき如き乳こ
 まのあき布あき遠る諸國皆遠り花の出ふ奇を
 覺ふしりども 燠地利と楅とあきあきりつと
 も美し薔薇山茶花椿あきあきのうと疑ふを
 うと西洋の薔薇の香甚ふあきあきて人の愛る
 る事あきバ遠り花もあきあきをばあきたりあきあ

蠟ろうをいきてつをはけおりてと裏うらとの色いろ紙かみも紙
 をもわのちね紫むらの如きわ初はつ花はな小こ深ふかくとなる
 もの盛さかりふ深ふかかしたるあど又考つたの紫の堅くし
 て紙中ちゆうのあらあどわいの布ぬど見ても遠とほりしも
 のとい思ひまどあらいの硝子びやうの小さき玉たまを紫
 の紫ふはちちく紫露あつ状じやうあらさぬとあしあらい
 の花のすちちをとて色あきも香ハあ紙かみ考みへる
 もあら又れ葡萄ぶどうの半熟ちゆうじやくしたる梅うめの実のこの色
 て赤くありたる麦の穂の枝まとて黄ふありたる
 ちあみいさらまで遠とほり出したり遠を花おたらぶ

かざしみらるりのしあらどあらいの花はな瓶びん花
 菴うゑふささべきかみふしたるもあらあらいのま
 うき硝びやう子ごの覆紙ふくかけ寒さを防ぐさぬふしたる
 もあらし

遠とほり花お紙と布とみ限かぎらど奥おく國こくの出品しゆふコル
 ク瓶のを紙かみの如く薄くあしこさみく花を遠り
 紫むらのまど花びら紫むらまでも塔コルクの色いろのま
 ぬて塗ぬらど深ふかめどらましの物ものを噴き細工この巧
 こあるをるるのこあらど切きりのの善よきも察さつ
 ちべー又ニワルツエンベルク公の出品しゆの内の牛

の皮を紙の如く薄くしてさぐぐの花を作りあ
 るいハ蠶の繭の羽ひめて花ともかく葉ともか
 ーたるあまきまとも思ひすらぬりのあり佛系西
 の造り花ハ多く金銀あど紙交じゆる故ハ眼ふ
 ハ美しく足ゆきどもまことの物の如くふたるえ
 ぞ又貝をあつめく花を造まるとあま貝細工の
 造り花ハわづの國よもあまども甚々粗ふして杜
 ー佛系西の貝細工たるくの外に漆あるりのか
 り又煨國の造り孔雀毛外英一き羽の羽ひめて
 花を造り小鳥をも造りてくらふとすらせざる

あま花類ハ種ーたるもあま佛の出品ハ小鳥の
 作り物あま鳥籠の内ふかちをりつるべくを
 主多真の鳥の如く以太利の部ふた五を小漆め
 たる綿羊の毛あく造りたる鳥次出せり
 土耳其希臘ローマニヤ及び亞細亞并利加の
 諸國ハ風俗大ハ次花巴と吳あまハ次区ありつ
 ともそまの葉もとり支那ハ薄き指あまも出せり
 造りたる甚掛やりのりのあり縫ハ密ふして
 花鳥あどを造りたるハかのづり々席画のあ
 るむきあま百鬼西の織物ハ支那ハを拙く羅紗

小徳箇一たるハ古風ふして粗あり又ローマニ
ヤの服ハ土耳其ふ似たり平金平銀の極一分を
うをふ丸く切りたるものみく徳をふ飾りと
せしむことの人衣どの人形を化りらるふ若て
て手國風を亦を兵卒ふ鏡をりさせて其廊の入
りけふたせざるあど其真の兵卒の聲清ら
うし思ふものりあり近代ハ欧羅巴同様の服も
交え用うるごとく足てこれをもつて祿多り土
耳其ハ麻木織物布かあきん組糸ブラント生
糸木綿糸などあきと出せり深色よりうらうらと

ぬめの物くふして汚く粗ある侍もあを其徳箇
生織物ちどみ若に精好ふしてわが國のりのふ
似より金銀もく徳かどせしもあり白糸紗の粗
あふふ金もくわくさ、其徳たる甚掛の如きも
のハ頗る美しくして其價三百フローリン
十八 其外頗る美しき徳りゆり多くあは徳も用
うる金糸ハ欧羅巴諸國ふ愛らば條條化り花の
如きハや欧羅巴小遊一土耳其其真の人衣ど
の大きき人形を二百をうり作り貴賤老若男
女のさぬを示し種々異振ある服を若せ廊の左

右の如く一めたりトニスの織物にたいては土耳其
其小同し糸を粗みして土耳其其小がまを縫ひの
も土耳其其小似たりモロツコも織物糸等土耳其小
似て粗し埃及もやう土耳其其小似うまを糸あま
と出せし木綿もあま戎服を欧羅巴の如く袖に
るしなりと金ふて縫いボレットを附多たらむ拙ら
らに平民の衣服を欧羅巴各國とい其さ自大小
かりしり希臘の生糸木綿糸などを出さ衣服縫
りの薄衣など土耳其其小似たりと精あり英國
領の東印度の布も甚と粗悪あり和糸領の東印
度の麻木綿等も又えたり

次区みて糸一等の褒賞を得たるは佛菜西ふ十
口箇澳地利ふ十三箇獨つふ十一箇白耳時と以
太利といづとも五箇瑞西ハ口箇英吉利魯西
亞ハ各三箇支那土耳其是れを各一箇合せて六
十二あり佛菜西のリオン澳地利のボエニヤを
製造の盛んあるところありと其内六箇はリオ
ン五箇はボエニヤあり

二等三等の褒賞を得るりの甚多しわが國にて
賞牌の褒賞を得たるは勸工寮上及富岡長野縣

筑摩糸の生糸西陣の綾織紗織模樣織羽二重伊
 達赤助の織物静長糸の轉核織江糸貞三の琥珀
 甲斐の鈴木共次右糸の秋内織を長糸の綿
 大坂府足羽糸茨城糸鹿兒島糸小倉糸宮城糸鳥
 取糸筑摩糸和歌山糸の織物横濱の推地正兵衛
 の縫取西糸の中村右兵衛の紐縫緑東京の菱屋
 伊兵衛の縫緑佐賀糸の辰通堀糸の紋羽琉球藩
 の織物あり表状の褒賞状はるりの福岡糸
 福島糸岐阜糸筑摩糸金花山掛田の生糸西陣の
 葦地落緒錦標西糸の鹿子豊長糸の緒綿緬鹿兒

島糸の緒山口糸度會糸赤川糸三重糸犬山糸
 額田糸の織物推野正兵衛の緬鹿子金線平兵
 衛の金線等あり

博覽會見聞録卷之五終

